

第88回

日本社会学会大会

第一日 2015年9月19日(土)

第二日 2015年9月20日(日)

—開催校—

早稲田大学戸山キャンパス

大会次第

日時	研究発表等	総会・役員会等	会場
9月18日(金)			
11:00～13:00		三役打ち合わせ	33号館16階第10会議室
13:00～15:00		新理事会 現理事会	33号館3階第1会議室 33号館16階第10会議室
15:00～17:00		新旧合同理事会	33号館3階第1会議室
15:00～18:00		英語ワークショップ	33号館4階437
17:30～19:30		拡大評議員会(新・旧理事合同)	染谷記念国際会館
9月19日(土)			
8:30～	受付開始		33号館1階ロビー
9:30～12:30	一般研究報告(1)		31、32、34、36号各教室
9:30～12:30	若手フォーラムA		34号館3階355
12:00～12:50		三役打ち合わせ	33号館4階437
12:40～13:20		研究活動委員会 国際交流委員会(ランチミーティング)	33号館2階231 33号館4階436
		IJJS編集委員会	33号館4階432
		常任社会学評論編集委員会	33号館4階433
		データベース委員会	33号館4階434
		財務委員会	33号館4階435
		社会学教育委員会	33号館4階431
13:30～14:30		総会	38号館2階AV教室
14:30～14:40		学会奨励賞表彰式	38号館2階AV教室
15:00～18:00	一般研究報告(2)		31、32、34、36号各教室
15:00～18:00	招待講演		36号館5階581
15:00～18:00	若手フォーラムB		34号館3階355
15:00～18:00	倫理委員会TS		36号館6階681
15:00～18:00	国際交流委員会TS		36号館3階382
18:30～20:00		懇親会	大隈ガーデンハウス
9月20日(日)			
8:30～	受付開始		33号館1階ロビー
9:30～12:30	一般研究報告(3)		31、32、34、36号各教室
9:30～12:30	日中ジョイントパネル		34号館3階355
9:30～12:30	招待講演		36号館5階581
10:30～13:00	ポスターセッション		31号館1階104、105
12:40～13:20		拡大社会学評論編集委員会 倫理委員会	33号館3階第1会議室 33号館4階431
		シンポジウム1打ち合わせ	33号館4階432
		シンポジウム2打ち合わせ	33号館4階433
13:30～17:00	シンポジウム1 シンポジウム2		34号館4階453 38号館2階AV教室

大会次第・備考

1. 大会参加費	一般会員 6,000 円	大学院生・学生会員	4,000 円
	一般非会員 7,000 円	大学院生・学生非会員	4,500 円
懇親会費	一般 5,000 円	大学院生・学生	3,000 円

大会参加費と懇親会費の事前納入（大会参加費は事前納入の場合 1000 円割引）を受け付けております。同封の別紙をご覧ください。（※懇親会費は、会費減額措置を受けている常勤職にない会員については院生と同額となります。）

なお、学会大会当日の受付は、たいへんな混雑が予想されます。事前納入にご協力をお願いいたします。

2. 受付は 33 号館 1 階ロビーです。受付後、必ず名札をご着用くださいますようお願いいたします。大会の運営上、名札をご着用になっていない場合に会場係が確認をさせていただくことがあります。

3. 抜き刷り・報告資料交換コーナーを 34 号館 1 階 151 教室（会員控室と同じ部屋です）に設置いたします。参加者は論文抜き刷りや報告資料の残部などを置くことができます。出版社などが書籍・雑誌を展示販売する書籍・雑誌コーナーは 32 号館 1 階 127・128 教室に設置します。

4. 会員控室は 34 号館 1 階 151 教室です。クロークは 31 号館 1 階 102 教室に設置いたします。大会本部は 33 号館 3 階第 2 会議室となります。

5. 託児スペースを 33 号館 6 階第 11 会議室に用意しております。

6. 戸山カフェテリア（38 号館 1F）は大会期間中、両日とも利用可能です（営業時間 11:30～14:00 オーダーストップ）。また、カフェテリア入口に飲み物の自動販売機と飲食ができる広めのオープンスペースがあります。休憩所としてご利用ください。

7. プログラムの修正・変更、報告要旨などについては学会ホームページの大会情報ページをご参照ください。
・日本社会学会 大会情報ページ：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/2015/09/19000000.php>

8. 大会開催校の連絡先

〒162-8644 新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学学術院 社会学研究室内 日本社会学会第 88 回大会事務局

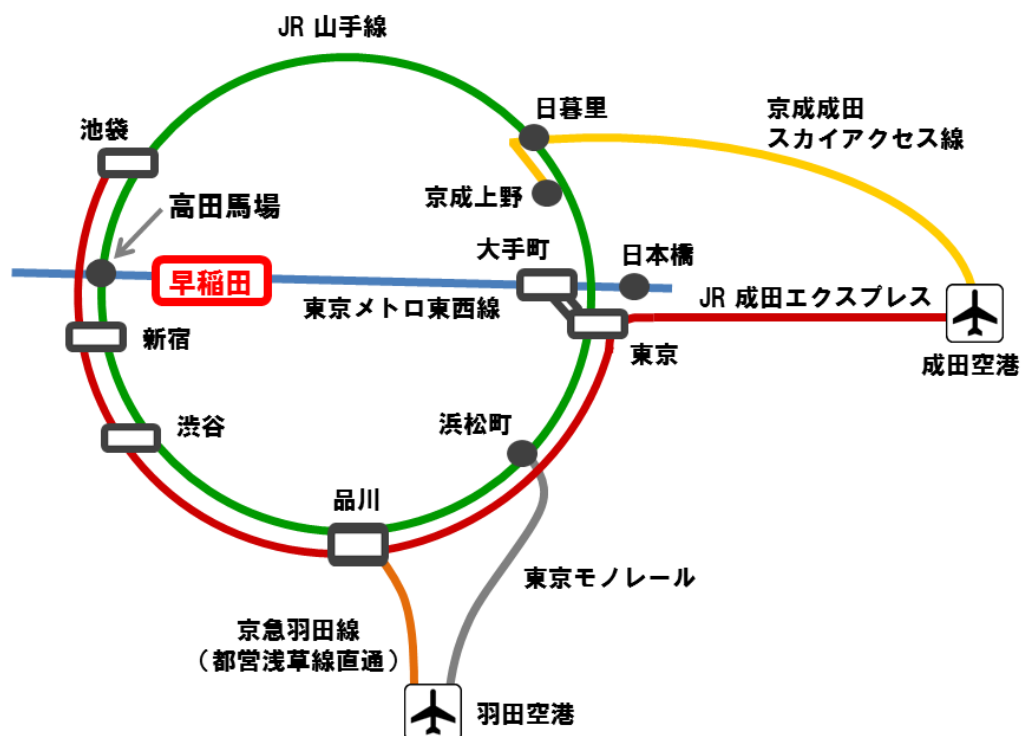
電話 03-5286-3742（社会学研究室）

メール jss2015info@list.waseda.jp

※ FAX は用意しておりません。上記メールアドレスまで、PDF 等の添付ファイルでお送りください。

会場までの交通案内

■最寄駅までのアクセス



・飛行機でご到着の場合

【成田空港】

JR成田エクスプレス利用で約1時間50分、JR「新宿駅」乗換、JR山手線「新宿駅」～「高田馬場駅」(5分)、地下鉄東京メトロ東西線「高田馬場駅」～「早稲田駅」(3分)
リムジンバス利用で約2時間、「新宿駅(西口)」乗換、JR山手線「新宿駅」～「高田馬場駅」(5分)、地下鉄東京メトロ東西線「高田馬場駅」～「早稲田駅」(3分)
京成スカイアクセス線快特利用で約75分、「京成上野駅」乗換、東京メトロ銀座線「上野駅」～「日本橋駅」(8分)、東京メトロ東西線「日本橋駅」～「早稲田駅」(11分)

【羽田空港】

京浜急行利用で約1時間、「日本橋駅」乗換、東京メトロ東西線「日本橋駅」～「早稲田駅」(11分)

・新幹線でご到着の場合

【新幹線東京駅】

JR「東京駅」乗換、→（地下通路徒歩5分程度）→ 東京メトロ東西線「大手町駅」～「早稲田駅」（13分）

【新幹線品川駅】

JR「品川駅」乗換、JR 山手線「品川駅」～「高田馬場駅」（23分）、地下鉄東京メトロ東西線「高田馬場駅」～「早稲田駅」（3分）

【新幹線大宮駅】

JR「大宮駅」乗換、JR 埼京線快速「大宮駅」～「池袋駅」（26分）、JR 山手線「池袋駅」～「高田馬場駅」（3分）、地下鉄東京メトロ東西線「高田馬場駅」～「早稲田駅」（3分）

■ 早稲田大学戸山キャンパス周辺マップ



・最寄り駅からの所要時間

【電車・徒歩】

地下鉄東京メトロ東西線、早稲田駅から徒歩3分

都電荒川線、早稲田駅から徒歩10分

副都心線、西早稲田駅から徒歩12分

JR 山手線・西武新宿線、高田馬場駅から徒歩20分

【バス】

JR 山手線・西武新宿線、高田馬場駅から都営バス「早大正門」行きに乗車し「馬場下町」バス

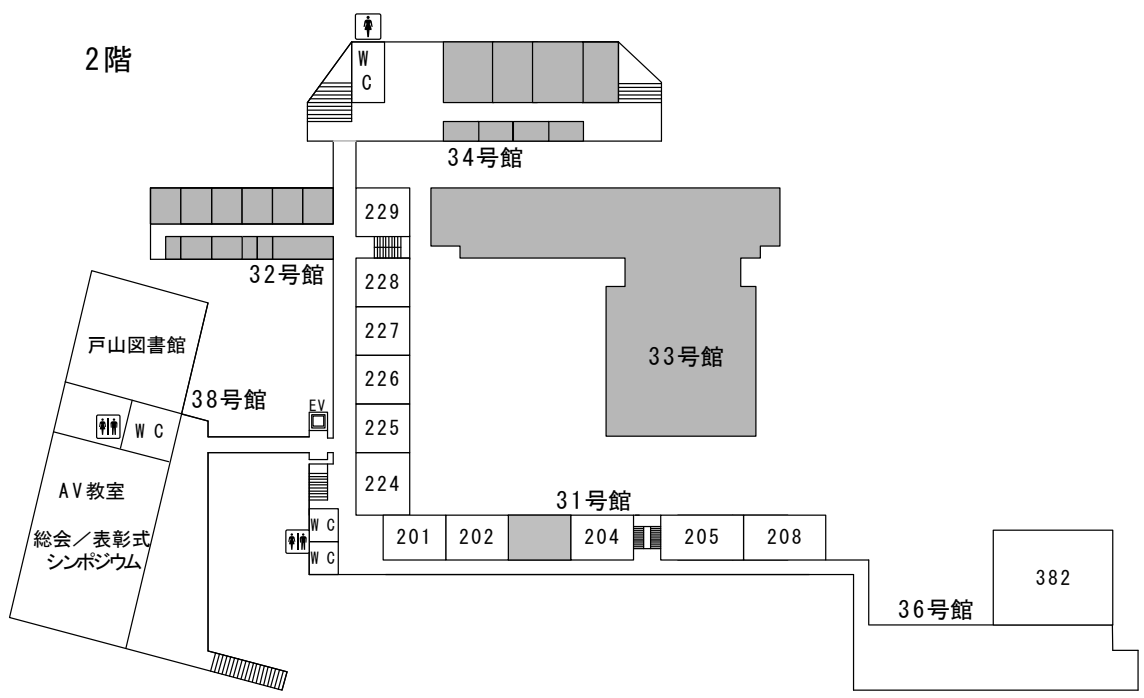
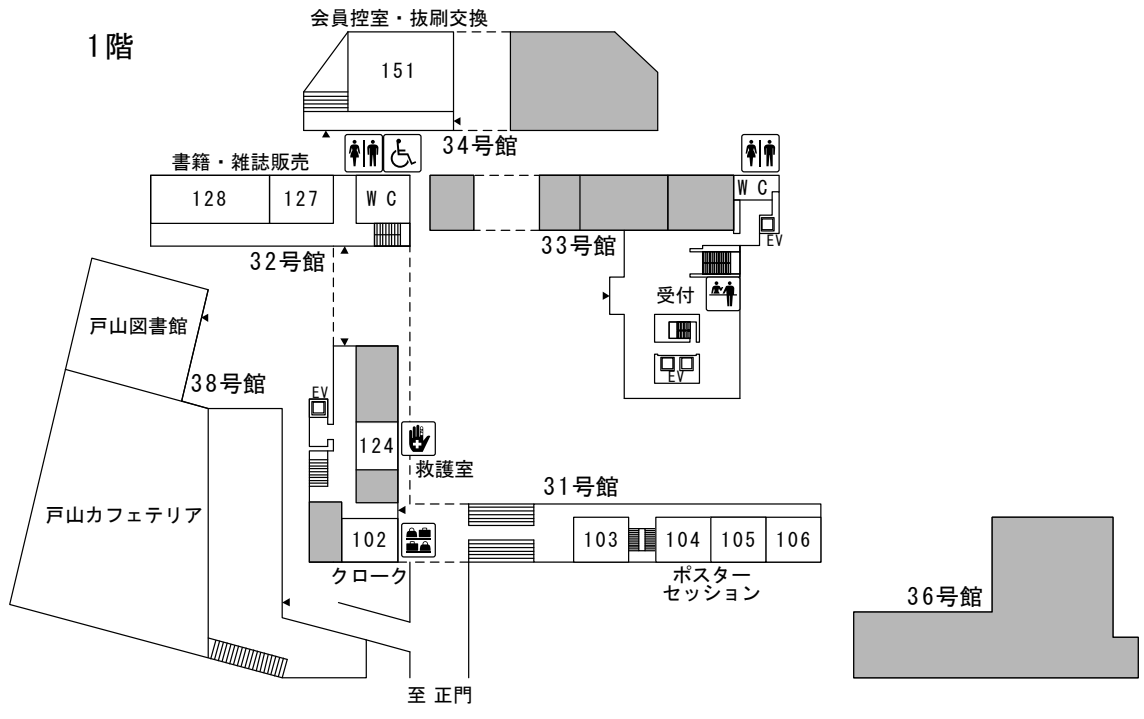
停（10分）で下車、徒歩2分

※なお、早稲田大学戸山キャンパスは自家用車でのご入構ができません。公共交通機関をご利用ください。

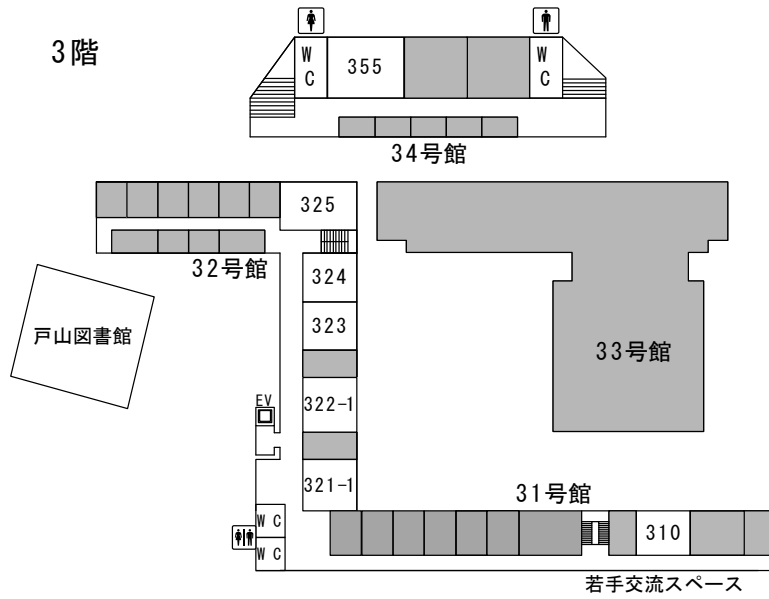
■早稲田大学戸山キャンパス内 案内図



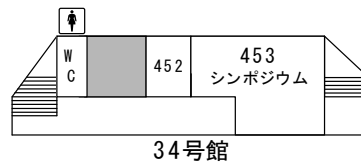
※カフェテリア（38号館1F）入口に飲み物の自動販売機と飲食ができる広めのオープンスペースがあります。休憩所としてご利用ください。



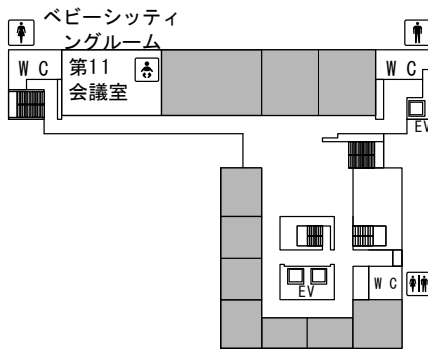
3階



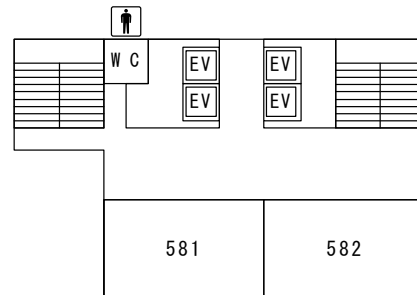
4階



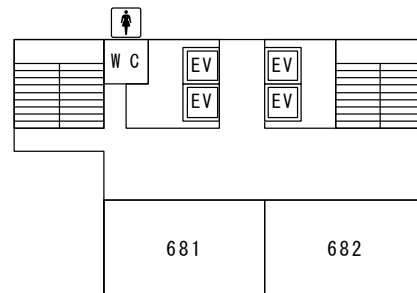
33号館
6階



36号館 5階

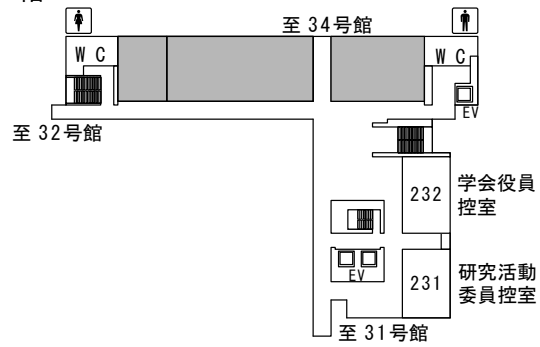


36号館 6階

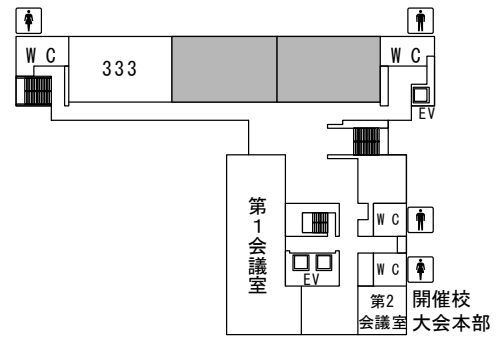


理事会、委員会関係など

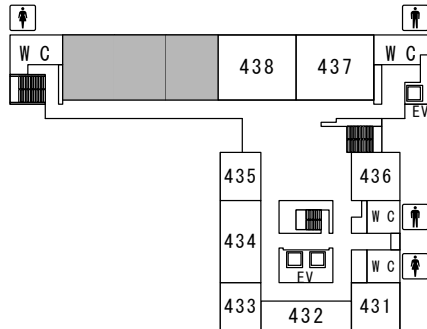
33号館
2階



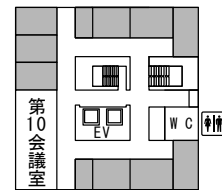
33号館
3階



33号館
4階



33号館
16階



研究報告をおこなううえでの注意事項

1. 共通事項

- ・万が一報告をキャンセルする場合は、すみやかに学会事務局（jss@sociology.gr.jp）と大会本部（jss2015info@list.waseda.jp）の両方に連絡してください。
- ・タイトルと報告内容は申込時のものから変更できません。
- ・部会終了時に配布資料が残った場合は、報告者が持ち帰ってください。会員控室（34号館1階151教室）に設けられた「抜き刷り・報告資料交換コーナー」に置いて配布することもできます。
- ・開催校でのコピーサービスはありません。

2. 自由報告（一般研究報告Ⅰ）、テーマセッション（一般研究報告Ⅲ）での報告

- ・部会開始時間の5分前までに会場に集合して、司会者と打ちあわせをしてください。
- ・報告時間は各報告15分で、そのあとに質疑応答が数分あります。原則として、報告開始後10分で第一ベル、15分で第二ベルが鳴ります。
- ・配布するレジュメや資料のコピーは、報告時に最低50部、適宜余部を用意してください。追加資料を配布することもできます。残部は、途中参加者がとりやすい所に積むようにしてください。
- ・プロジェクタの利用をされる場合は、ご自身でパソコンをご持参ください。
- ・会場には、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル（Mini D-sub15ピン）が備わっております（Macをご利用の場合はコネクタないアダプタをお持ち下さい）。
- ・部会開始15分前に会場にお越しいただき、接続・動作の確認など機器の準備をしてくださるようお願いいたします。また、機器に不具合はつきものですので、万が一に備えて、機器なしでも滞りなく発表できるようにご自身でご準備ください。
- ・特に、テーマセッション、研究チームでのご報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、事前に報告者間で連絡調整をしてくださいますようお願いいたします。
- ・その他部会の進行については、司会者の指示にしたがってください。

3. ポスターセッション（一般研究報告Ⅱ）での報告

- ・ポスターセッションの会場は2つに分かれています。33ページにある発表番号1～6の方は31号館1階104教室、発表番号7～11の方は31号館1階105教室にて報告をおこなってください。
- ・部会開始時間の10分前までに会場に集合して、監督者と打ちあわせをしてください。
- ・ポスターの掲示スペースは、幅90cm、高さ120cm程度です（A0判が入ります）。
- ・ポスターの掲示場所は、プログラムに基づいて割りふられています。
- ・報告時間は2時間30分です。時間中は基本的にポスターの前において、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨伝えてください。無断で長時間不在の場合、報告が取り止めとされることがあります。
- ・資料を配布することもできます（最低50部用意することを強く推奨します）。
- ・その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

部会一覧

教室番号	9月19日(土)		9月20日(日)
	9:30~12:30	15:00~18:00	9:30~12:30
	一般研究報告(1)	一般研究報告(2)	一般研究報告(3)
【31号館】 201	民族・エスニシティ(1)	民族・エスニシティ(2)	民族・エスニシティ(3)
202	教育	子ども・青年・中高年(1) 現代若者文化の位相と地域性	子ども・青年・中高年(2)
204	Session in English(1)	Session in English(2)	Session in English(3)
205	テーマセッション(1) 社会学における概念・理論・方法の移植(transplant)(1)	テーマセッション(5) 社会学における概念・理論・方法の移植(transplant)(2)	テーマセッション(7) 「世界へのメッセージ」を深める
208	テーマセッション(2) 空間の接触領域を再考する	研究活動委員会企画テーマセッション(1) トランスナショナルリズムの批判的再検討	研究活動委員会企画テーマセッション(2) 専門職教育における社会学
【32号館】 224	性・ジェンダー(1)	性・ジェンダー(2)	テーマセッション(8) <男性の生きづらさ>をめぐる社会学
225	産業・労働・組織(1)	産業・労働・組織(3)	階級・階層・移動
226	産業・労働・組織(2)	産業・労働・組織(4) コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査	産業・労働・組織(5)
227	学史学説	理論	
228	人口	家族 結婚	地域社会・地域問題(4)
229	地域社会・地域問題(1)	地域社会・地域問題(2) 観光の社会学	地域社会・地域問題(5) 地域の壁を考える
【32号館】 321-1	都市	地域社会・地域問題(3)	地域社会・地域問題(6)
322-1	環境	災害(1)	災害(2) 東日本大震災
323	社会病理・逸脱(1)	社会病理・逸脱(2)	知識・科学
324	福祉・保健・医療(1)	福祉・保健・医療(2)	福祉・保健・医療(3)
325	テーマセッション(3) 地方消滅から地方創生へ	テーマセッション(6) 食と農の社会学	社会運動
【34号館】 355	若手フォーラムA 佐藤慶幸	若手フォーラムB 見田宗介	日中ジョイントパネル
452	文化・社会意識(1) 趣味の社会学	文化・社会意識(2)	情報・コミュニケーション
【36号館】 382		国際交流委員会企画テーマセッション	
581	テーマセッション(4) 幸福への社会的アプローチ	招待講演	
582	歴史・社会史・生活史(1)	歴史・社会史・生活史(2)	歴史・社会史・生活史(3)
681		倫理委員会企画テーマセッション	
682	研究法・調査法(1) ICT支援型モード比較調査	研究法・調査法(2)	

研究報告題目

第一日 (9月19日)

一般研究報告(1) (9時30分～12時30分)

学史・学説

教室 32号館227

司会者 多田 光宏 (熊本大学)

1. 社会観察の複数性について——カントを参照点とするジンメルとルーマンの比較 関東学院大学 高 橋 幸
2. 想像の共同体の共同行為的基盤——巡礼圏とコミュニオンに注目して 神戸大学大学院 藤 岡 達 磨
3. D. ジョドレー『狂気と社会的表象』における「背景」という発想の展開 一橋大学大学院 熊 谷 有 理
4. 個別性の社会生成過程——ポスト・ブルデュー社会学の検討を通じて 慶應義塾大学大学院 小 田 切 祐 詞
5. 文化社会学の視覚論的転回 (ビジュアル・ターン) に関する一考察——ニクラス・ルーマンのコミュニケーション・メディア論との対比で 神戸大学 梅 村 麦 生
6. 音楽コミュニケーションに関する研究——シュッツのコミュニケーション・モデルによる検討 寺 前 典 子

研究法・調査法(1) ICT支援型モード比較調査

教室 36号館682

司会者 海野 道郎 (東北大学)

1. ICT支援型モード比較調査(1)——調査概要と回収状況 ○立教大学 歸 山 亜 紀
お茶の水女子大学 杉 野 勇
2. ICT支援型モード比較調査(2)——回答内容のモード比較 お茶の水女子大学 黒 川 す み れ
大学院
3. ICT支援型モード比較調査(3)——回答時間 金沢大学 轟 亮
4. ICT支援型モード比較調査(4)——質問項目の無作為化 お茶の水女子大学 杉 野 勇
5. ICT支援型モード比較調査(5)——海外聞き取り調査からの知見 北陸学院大学 俵 希 實

人口

教室 32号館228

司会者 船橋 恵子 (比較社会構想研究所)

1. 人口をめぐる知——日本社会における人口概念の展開 法政大学大学院 山 田 唐 波 里
2. 高田保馬の少子化論——社会学の巨人に学ぶ 東京大学 赤 川 学
3. 長い子ども期の意味は、単に大きくなって長生きすること——エリック・チャーフ説から社会化説・アリエス説を再検討する 奈良大学 尾 上 正 人
4. 中山間地における子育て支援の可能性 ——長野市の中山間地と都市部を事例に ○長野林業大学校 西 朋 子
信州大学 友 川 幸
5. 少子化対策の盲点 ——東京都心のベビーカー使用者意識調査の分析結果から 千葉商科大学 田 中 美 子
6. 母乳育児指導と出産間隔 富山大学 中 村 真 由 美

都市

教室 32号館 321-1
司会者 松本 康 (立教大学)

1. 都市居住と〈近居〉——時代論的・世代論的観点からみる「親の居住地」 関西学院大学大学院 松川 尚子
2. 不動産業から見る住宅供給・管理——不動産業の制度と実態を比較して 東京大学大学院 佐藤 和宏
3. 「住み替え」という「自己決定」——サービス付き高齢者向け住宅への入居をめぐる お茶の水女子大学 原 葉子
4. 住宅広告がつくる「階層」とその現実——現代中国を事例に消費社会を再考する 北海道大学 周 倩
5. 住環境デザインのエスノメソドロジックのエスノグラフィ序説——デザイン事務所におけるデザイナーとクライアントの相互行為分析 新潟青陵大学 海老田 大五朗
6. 中国の「社区」はどう捉えるのか——「国家-社会」から「システム統合-社会統合」へ 東京大学大学院 張 継元

地域社会・地域問題(1)

教室 32号館 229
司会者 藤井 和佐 (岡山大学)

1. 宜野湾市の郷友会——自治会の派生的アソシエーション 吉備国際大学 平井 順
2. 八重山古典音楽の演奏と「沖縄イメージ」の複数性について——東京在住者と「留学」者の唄三線の事例比較から 拓殖大学 桃塚 薫
3. 自衛隊基地と沖縄の地域社会 相愛大学 藤谷 忠昭
4. 軍事化と地域社会の変容——京都府京丹後市宇川地区における米軍基地建設を事例に 大阪大学 大野 光明
5. 農村の水利用における小水力発電の位置——中国地方の農村小水力発電を事例として 熊本大学大学院 福本 純子
6. 新潟県魚沼地域の医療再編に対する住民の意識 慶應義塾大学 加藤 英一

産業・労働・組織(1)

教室 32号館 225
司会者 高橋 康二 (労働政策研究・研修機構)

1. 仕事の価値と労働者の意識——インターネット調査データによる探索的な分析 立命館大学 田 靡 裕 祐
2. 職業的キャリアに関する語りの再定式化——キャリア支援カウンセリングにおける、困難や責任の帰属実践についての会話分析 千葉大学大学院 三部 光太郎
3. 報酬格差の社会学に向けて——雇用上の「ポジション」と報酬の結び付きを説明する枠組み構築の試み 東京大学 有 田 伸
4. 非正規雇用から正規雇用への移行——内部登用と転職 下関市立大学 森 山 智彦
5. 入職経路が転職結果に与える影響——職場定着と雇用形態 東京大学 福 井 康 貴
6. 大卒就職活動における地域移動の限定性 東京大学大学院 井 口 尚 樹

産業・労働・組織(2)

教室 32号館226
司会者 佐藤 博樹(中央大学)

- | | | |
|---|----------------|--------|
| 1. 「余暇・レジャー」概念の社会学的考察 ——余暇社会学/レジャー・スタディーズの再検討を介した概念整理 | 東海大学 | 小澤 考人 |
| 2. 日本の余暇政策における「自由時間」の意味 —— 「時間資源」としての余暇 | 一橋大学大学院 | 青野 桃子 |
| 3. 「好きなことを仕事にする」ことの変遷 —— 『好きを仕事にする本』を事例に | 公益財団法人 家計経済研究所 | 久木元 真吾 |
| 4. ハキムの選好理論における適応的な就業行動 —— 仕事と家庭をめぐる女性の選択に関する考察 | 労働政策研究・研修機構 | 池田 心豪 |
| 5. アンケート調査から見る医師の年休取得の実態 —— 診療科間の差異に注目して | 松山大学 | 井 草 剛 |
| 6. 公正な組織は健康をもたらすか? —— 組織的公正がメンタルヘルスに及ぼす影響 | 東北学院大学 | 片瀬 一男 |

環境

教室 32号館322-1
司会者 藤川 賢(明治学院大学)

- | | | |
|--|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 福島原発事故後の親子の生活と健康に関するパネル調査(1) —— 原発事故からのレジリエンスを求めて | ○中京大学
愛知県立大学
中京大学
桃山学院大学 | 成 元 哲
牛 島 佳
松 谷 満
阪 口 祐介 |
| 2. 福島原発事故後の親子の生活と健康に関するパネル調査(2) —— 健康不安の変化とその社会的規定因 | ○中京大学
中京大学
愛知県立大学
桃山学院大学 | 松 谷 満
成 元 哲
牛 島 佳
阪 口 祐介 |
| 3. 廃棄物管理をめぐる制御と抵抗 —— 中国・瀋陽市における「ごみ村」で生きる人々を事例として | 関西学院大学 | 金 太 宇 |
| 4. 「ごみ屋敷」の社会学 —— 当事者はなぜごみを溜めるのか | 大阪大学大学院 | 梅 川 由紀 |
| 5. 国際環境保全制度のローカライゼーション —— 綾ユネスコエコパークを事例に | 総合地球環境学研究所 | 大 元 鈴子 |

文化・社会意識(1) 趣味の社会学

教室 34号館452
司会者 辻 泉(中央大学)

- | | | |
|---|---------|--------|
| 1. アニメ批評から「アニメ(ーション)批評」へ —— 1980年代の『アニメージュ』における諸言説とその分析をてがかりに | 専修大学 | 萱 間 隆 |
| 2. アニメブームとはいかなる経験だったのか —— 1970年代から80年代のアニメ産業の変容 | 筑波大学大学院 | 永 田 大輔 |
| 3. 漫画というメディア —— 江戸川乱歩作品の「漫画化」を手掛かりに | 東京情報大学 | 茨 木 正治 |
| 4. ローカルアイドルのアスピレーション —— 東海地区のアイドルを事例として | 名古屋文理大学 | 田 川 隆博 |
| 5. 鉄道趣味世界における女性ファンたち —— インタビュー調査から見るその位置づけと意義 | 関西大学大学院 | 塩 見 翔 |
| 6. 鉄道趣味を支える空間 —— SLブーム期における雑誌記事の計量テキスト分析から | 東京大学大学院 | 塩 谷 昌之 |

教育

教室 31号館 202
司会者 佐藤 郁哉 (一橋大学)

1. 教育期待の規定要因の国際比較——教育機会の構造にみる業績主義と属性主義 東京大学 森 いづみ
2. 都立高校生の進路選択過程に関する継時的研究——困難地区の進路多様校や特色校を事例として 中央大学 古 賀 正義
3. 社会科教育における社会調査法の応用可能性——中等教育段階での授業実践をととして 中京大学 森 田 次 朗
4. 日本社会のグローバル化と日本の外国語（英語）教育政策を考える——グローバル化の2つの局面（英語化と多言語化）から見た外国語政策をめぐって 早稲田大学大学院、愛知県立高等学校 岩 村 博 史
5. 現代の学校における読書実践の変容——書籍というメディアと読書規範に注目して 東京大学大学院 團 康 晃
6. 吹奏楽部活動における演奏と清掃のアナロジー——県立高等学校吹奏楽部の活動を事例として 早稲田大学 田 口 裕 介
7. 勤評闘争における教育の「妥協なき理念化」と「思想なき従順さ」について——1950年代後半の栃木県教職員組合の衰退を事例として 首都大学東京大学院 岩 井 司

社会病理・逸脱(1)

教室 32号館 323
司会者 上野 加代子 (徳島大学)

1. ダルクスタッフの『回復』の多様性——ベテランスタッフへのインタビューを焦点に 埼玉県立大学 相 良 翔
2. 「やめる」と言える自分をつくる——「矯正教育プログラム（薬物非行）」の質的分析（3） ○成城大学 南 保 輔 幸
四天王寺大学 平 井 秀 幸
3. 「自分のせい」と「人のため」から、「クスのせい」と「自分のため」へ——「矯正教育プログラム（薬物非行）」の質的分析（4） ○四天王寺大学 平 井 秀 幸
成城大学 南 保 輔
4. セルフヘルプグループの使い分け——ユニークフェイス/見た目問題を事例として 日本学術振興会 矢 吹 康 夫
5. ハビトゥスとアディクション——「境界性パーソナリティ障害」からの〈回復〉とは何か 慶應義塾大学大学院 澤 田 唯 人

福祉・保健・医療(1)

教室 32号館 324
司会者 井口 高志 (奈良女子大学)

1. 「セルフケア」と「フォーマルケア」との相乗性に関する考察——固有の生における「基軸」の構築へむけて 国立保健医療科学院 松 繁 卓 哉
2. 「自己選択する」とはどういうことか？——認知症ケアに取り組む、事業所Xを事例に 関西大学 木 下 衆
3. ケア労働の公正分配としての両立支援——「両立責任の個人化」への批判 実践女子大学 山 根 純 佳
4. ケアにかかわる領域はどのように専門職化するのか？ 広島国際学院大学 竹 中 健
5. ヤングケアラーに関する小・中学校教職員の認識——新潟県A市公立小・中学校の全教職員を対象としたアンケート調査から 成蹊大学 澁 谷 智 子
6. 男であることの希望？——息子介護者は自身のケア能力をいかに説明するか 東京都健康長寿医療センター研究所 平 山 亮

性・ジェンダー (1)

教室 32号館 224
司会者 牟田 和恵 (大阪大学)

- | | | |
|--|--|--|
| 1. 日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識 (1)——セクシュアル・マイノリティ間の比較 | ○中京大学
明治学院大学
広島修道大学
国立社会保障・人口問題研究所
横浜市立大学大学院 | 風 間 孝
石 田 仁
河 口 和
釜 野 さ お
吉 仲 崇 |
| 2. 日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識 (2)——同性婚の賛否を規定する要因の探索的分析 | ○明治学院大学
広島修道大学
国立社会保障・人口問題研究所
横浜市立大学大学院
中京大学 | 石 田 仁
河 口 和
釜 野 さ お
吉 仲 崇
風 間 孝 |
| 3. 日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識 (3)——身内と他人の場合の比較ならびに社会経済的属性との関連 | ○国立社会保障・人口問題研究所
横浜市立大学大学院
中京大学
明治学院大学
広島修道大学 | 釜 野 さ お
吉 仲 崇
風 間 孝
石 田 仁
河 口 和
山 幸 代 |
| 4. 同性同士のパートナーシップの可能性 | 聖泉大学 | 山 幸 代 |
| 5. 同性パートナーシップ制度化の倫理的検討——どの順番で、どこから変えるのが望ましいのか？ | 東京大学 | 森 山 至 貴 |

民族・エスニシティ (1)

教室 31号館 201
司会者 酒井 千絵 (関西大学)

- | | | |
|--|--------|----------------------|
| 1. 沖縄・先島諸島のフィリピン人女性たち——(1) 島の結婚移民として | 静岡県立大学 | 高 畑 幸 |
| 2. 沖縄・先島諸島のフィリピン人女性たち——(2) フィリピン人女性たちの生活世界 | 琉球大学 | 野 入 直 美 |
| 3. ロンドンの女性ムスリムの教育意識——自律性、家族、信仰 | 近畿大学 | 安 達 智 史 |
| 4. ハイブリッド・アイデンティティ：日本に長期滞在する欧米人へのインタビュー調査 | 九州大学 | グ レ ゴ リ ー
オ キ ー フ |
| 5. 定住外国人への態度に対する寛容と信頼の効果——松本市調査から | 信州大学 | 辻 竜 平 |
| 6. エスニック排外主義と市民権 | 北海道大学 | 樽 本 英 樹 |

歴史・社会史・生活史 (1)

教室 36号館 582
司会者 石田 佐恵子 (大阪市立大学)

- | | | |
|--|----------|---------|
| 1. 職場文学の誕生——八幡製鉄を事例として | 筑波大学大学院 | 野 上 亮 |
| 2. 後期近代化社会における「文化装置」としての博物館——梅棹忠夫の文化開発に関する歴史社会学的考察 | 東京大学大学院 | 高 田 正 哉 |
| 3. 宝塚少女歌劇団にみる上品の構築——『歌劇』投稿欄を分析して | 滋賀大学大学院 | 御 幸 英 寛 |
| 4. 映像アーカイブによる地域の中間的コミュニケーションの研究 | 新潟大学 | 原 田 健 一 |
| 5. テレビニュースにおける言語現象の社会的要因に関する一考察 | 北陸大学 | 轟 里 香 |
| 6. 高齢化した団塊世代をマス (団塊) から個へ解体する——類型化過程と残余の人びと | 同志社大学大学院 | 岡 本 洋 一 |

Session in English (1) Bld. No.31 204
 Chairperson: Masako Ishii-Kuntz (Ochanomizu University)

1.Caught between Traditionalism and Egalitarianism? : Exploring the Impact of Patriarchy and Familism on Women's Marital Status and Wellbeing in East Asia	Academia Sinica	Chang Hsin-Chieh
2.Subjective Well-Being and Adaptation of Newcomer Chinese Immigrants in Japan	Waseda University	JIE ZHANG
3.Work ethic, ideology, subjective well-being and preferences for income redistribution: A comparision between Japan and Korea	Osaka University	JAE YOUL SHIN
4.Social network and income gap in urban China:A comparative study of local urban residents and rural migrants	Hong Kong Baptist University	Fung Ka YI
5.Virtuous Care: The Spatial Organization of Care in Residential Homes for the Elderly	Cardiff University	Eleanor Kate Johnson
6.Exploring the Needs of the Poor through Adopt-A Barangay: The Case of San Juan, Malvar, Batangas	Batangas State University	Mojares Geneta Juvy

社会学における概念・理論・方法の移植 (transplant) (1) (テーマセッション1)
 教室 31号館205
 司会者 飯島 祐介 (東海大学)

1. 社会学用語の移植という“権威づけ”の契機	武蔵大学	藤田 哲司
2. 学史研究に作用する「社会学」のイデオロギー——外山正一における「社会学」の位置をめぐる	東京大学大学院	鈴木 洋仁
3. 「集団」再考——戸田貞三の教育論にみる社会認識と集団概念	東京大学	品治 佑吉
4. 日本社会における Community 概念の移植——学术界と一般社会への移植と受容に着目して	東京大学大学院	渡邊 隼
5. 社会調査現場における「当事者」とは誰か? ——ヘイトスピーチへの対抗活動にかかわる参与観察をもとにして	一橋大学大学院	松岡 瑛理

空間の接触領域を再考する (テーマセッション2)
 教室 31号館208
 司会者 内海 博文 (追手門学院大学)

1. トランスカルチュレーションとハイブリッド化——接触領域におけるカルチュラル・スタディーズ	大阪国際大学	白石 真生
2. 住まうこと、さすらうこと、むすびつくこと——東ティモールにおける土地をめぐるポリティクス	摂南大学	上田 達
3. 接触領域としての観光地を再考する	大阪国際大学	柄澤 健史
4. 多文化混交地域における「共生」の複合的展開——新興コリア系外国人学校 T と X 地区の関係構築過程に着目して	大阪大学大学院	金南 咲季
5. 婦人の手芸作品が出現する空間に関する考察——神戸市兵庫区、長田区を対象として	流通科学大学	山下 香
6.E. フリードソン・専門職論のパーспекティブ	熊本大学	中川 輝彦
7. 国家の周縁の移民／農民——フランスにおけるモン農士の事例から	立教大学	中川 理

地方消滅から地方創生へ——日本賦活の条件（テーマセッション3）

教室 32号館325

司会者 金子 勇（神戸学院大学）

- | | | |
|---|------------------|---------|
| 1. 地方創生言説・政策の構造と展開可能性——社会分析に求められるもの、
できること | 首都大学東京 | 山 下 祐 介 |
| 2. 地方創生をめぐる道徳的対立を超えて | 弘前大学 | 平 井 太 郎 |
| 3. 地方消滅論に都市はどのように向き合うか——愛知県の事例から | 愛知県立大学 | 松 宮 朝 |
| 4. 人口減少社会の農山村の分析枠組み | トクノスクール
農村研究所 | 徳 野 貞 雄 |

幸福への社会学アプローチ（テーマセッション4）

教室 36号館581

司会者 小林 盾（成蹊大学）

- | | | |
|--|--|--|
| 1. ソーシャル・キャピタルと幸福——国の公的
社会支出は家族関係の意味をどのように
変えるのか | 関西大学 | 赤 枝 尚 樹 |
| 2. 女性と幸福——幸せにつながる選択とは？ | 専修大学 | 秋 吉 美 都 |
| 3. 高齢男性の主観的幸福感 | 岡山大学 | 野 邊 政 雄 |
| 4. Age and Happiness: An Empirical Examination of Furuichi's 'Happy Youth'
Hypothesis | ○ Hokkaido
University
German Institute for
Japanese Studies | HOMMERICH
C a r o l a
Tim Tiefenbach |
| 5. 脱埋め込みと主観的 Well-Being 規定要因の違い | 大阪大学大学院 | 橋 爪 裕 人 |
| 6. ケアと幸福——存在論的、社会的アプローチ | 青山学院大学 | 今 田 高 俊 |

10年代社会におけるアソシエーションの可能性（若手フォーラムA）

教室 34号館355

対話者 佐藤 慶幸（早稲田大学名誉教授）

コーディネーター 片桐 新自（関西大学）

山田 真茂留（早稲田大学）

- | | | |
|-------------------------------|---------|-----------|
| 1. 『産業の論理／生活者の論理』の今日的有効性をめぐって | 早稲田大学 | 畑 山 要 介 |
| 2. 運動の制度化と政府・企業との関係 | 東京大学大学院 | 藤 田 研 二 郎 |
| 3. 現代におけるアソシエーションの組織論的課題 | 筑波大学大学院 | 富 井 久 義 |
| 4. 『個人化』時代におけるライフスタイル運動と市民社会 | 立命館大学 | 富 永 京 子 |

第一日 (9月19日)

一般研究報告 (2) (15時00分～18時00分)

理論

場所 32号館227
司会者 高橋 徹 (中央大学)

- | | | |
|---|-----------|-----------|
| 1. 社会の4つの活動領域の理念型的目標と活動内容、活動原理の提案と図解——経済人類学の知見と富永健一の図解に触発された教育的モデルの提案 | 東洋英和女学院大学 | 名 嘉 憲 夫 |
| 2. ルーマンのリスク社会論からみるポスト 3.11 の科学言説——放射線の健康影響をめぐる科学と政治 | 広島市立大学 | 湯 浅 正 恵 |
| 3. 作動上のカップリングにおける「副作用」分析 | 京都大学 | 小 林 伸 行 |
| 4. 中国社会の個人化——「双軌制」をきっかけとして | 東京大学大学院 | 李 盈 慧 |
| 5. 心理主義化論の再構成——デュルケム道徳論と個人化論の視点から | 筑波大学大学院 | 赤 羽 由 起 夫 |
| 6. ふたつの再帰性とその神経科学的メカニズム——ギデンズ社会理論の遺伝子 - 文化共進化理論的再構成の試み | 日本女子大学 | 三 原 武 司 |

研究法・調査法 (2)

教室 36号館682
司会者 川端 亮 (大阪大学)

- | | | |
|---|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 順位相関指標の多変数への拡張 | 九州大学 | 鈴 木 讓 |
| 2. 新旧社会調査テキストの比較分析——現代社会の変容と社会調査教育の課題 | 流通科学大学 | 宇 田 川 拓 雄 |
| 3. 住民基本台帳の閲覧・回収率・データ公開問題について——JGSS-2015の実施を通してみた社会調査の困難 | ○大阪商業大学
大阪商業大学
大阪商業大学 | 眞 住 優 助
岩 井 紀 子
孟 哲 男 |
| 4. 量的調査のブラックボックス／質的調査の公共性 | 龍谷大学 | 岸 政 彦 |
| 5. 価値観の実証的研究の新しい展開——Circumplex モデルから Radex モデルへ | 青山学院大学 | 真 鍋 一 史 |

家族 (結婚)

教室 32号館228
司会者 山田 昌弘 (中央大学)

- | | | |
|---|-----------------------|--------------------|
| 1. 職場における出会いと結婚意欲の関係 ——出生動向基本調査と「未婚男女の結婚と仕事に関する意識調査」の分析 (1) | 中京大学 | 松 田 茂 樹 |
| 2. 未婚男女の出会いの阻害要因——出生動向基本調査と「未婚男女の結婚と仕事に関する意識調査」の分析 (2) | 大阪商業大学 | 佐 々 木 尚 之 |
| 3. 未婚者の結婚・出生意欲を規定する仕事要因及び家庭要因——出征動向基本調査と「少子化と未婚女性の生活環境に関するインターネット調査」の分析 (3) | ○東京大学大学院
経済社会総合研究所 | 高 村 静 子
大 澤 朗 子 |
| 4. 「出会い」概念にもとづく両性結婚モデル——未婚化の諸相の理解に向けて | 帝京大学 | 神 山 英 紀 |
| 5. 配偶者との出会いのきっかけと夫婦の特徴の関係 ——「見合い結婚」から「職縁結婚」への移行に注目した分析 | 明治大学大学院 | 中 村 真 理 子 |
| 6. 世代間学歴同類婚の趨勢——大規模調査データの統合による分析 | 東京大学大学院 | 打 越 文 弥 |
| 7. 交際と結婚への移行における社会経済的地位の効果分析 | 東京大学大学院 | 永 島 圭 一 郎 |

地域社会・地域問題 (2) 観光の社会学 教室 32号館 229
司会者 矢部 拓也 (徳島大学)

- | | | |
|--|-----------------|----------|
| 1. 観光の社会学 (1) 観光で社会をとらえる視点と手法の深化——北海道と沖縄への歴史的アプローチから | 一橋大学 | 多田 治 |
| 2. 観光の社会学 (2) 戦後日本における「南国」観光の変遷と宮崎——1960年代後半—70年代の新婚旅行ブーム期を中心として | 関西学院大学 | 長谷川 司 |
| 3. 観光の社会学 (3) 川越一番街のまちづくりと観光——実践から問い直す「観光まちづくり」のあり方 | 一橋大学大学院 | 小林 ジェームス |
| 4. 観光の社会学 (4) 旅行者ニーズの多様化と観光地域づくりの考察——地域の過剰な「物語化」 | (株)サーベイリサーチセンター | 吉口 克利 |
| 5. 観光の社会学 (5) クラフト・ツーリズム——観光から考える「工芸品・手しごとの品と現場」 | 一橋大学大学院 | 清水 友理子 |
| 6. 観光の社会学 (6) 観光地における新空港の社会的影響——石垣島の再観光地化と再自立化 | 一橋大学大学院 | 小股 遼 |

地域社会・地域問題 (3) 教室 32号館 321-1
司会者 玉野 和志 (首都大学東京)

- | | | |
|---|-----------|--------|
| 1. 都市祭礼における「町内」意識の変容と現在——長浜曳山祭における子ども歌舞伎役者の決定プロセスを手がかりとして | 滋賀県立大学 | 武田 俊輔 |
| 2. 地域社会における経営者の自発的結社の展開とその位置づけ——青年会議所の展開とその地域伝統祭礼参加を事例として | 東京大学大学院 | 嶋田 吉朗 |
| 3. 市民参加型の映画づくり——地方都市の独立系映画館による映画製作を事例として | 東海大学 | 石垣 尚志 |
| 4. 記憶の贈与と共視の関係——コミュニティアーカイブ制作と町家シネマ活動を事例として | 龍谷大学 | 松浦 さと子 |
| 5. 地域への居住開始時期と高齢期の社会参加——JAGES2010-11の分析 | 愛知学院大学 | 鈴木 佳代 |
| 6. なぜ他出者は帰らないのか？——青森県出身首都圏在住者を事例に | 首都大学東京大学院 | 成田 凌 |

産業・労働・組織 (3) 教室 32号館 225
司会者 山下 充 (明治大学)

- | | | |
|--|---------|--------|
| 1. 中国都市部にみる若年高学歴者の移動戦略——深圳市の事例から | 神戸大学 | 連 興 檳 |
| 2. 中国・上海における「寿司職人」という職業の登場及びその技能とキャリア | 名古屋大学 | 王 昊 凡 |
| 3. グローバリゼーションと外国人労働者のキャリア達成——フランスの日本人レストラン経営者の事例から | 大正大学 | 澤口 恵一 |
| 4. 建設産業再編成と技能育成システムの課題——外国人技能実習生拡大施策の構造的背景 | 一橋大学大学院 | 惠羅 さとみ |
| 5. システム開発における組織・エンジニア行動・人材マネジメント——日中韓3企業の比較分析 | 一橋大学 | 西野 史子 |
| 6. 養成工制度の構造と変容——釜石製鉄所の戦前・戦後 | 東海大学 | 高木 俊之 |

産業・労働・組織 (4) コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査

教室 32号館 226

司会者 中村 真人 (東京女子大学)

- | | | |
|--|-----------------------|----------------|
| 1. 誰がコミュニティ・ユニオンに参加しているのか——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (1) | ○広島国際学院大学
神戸大学 | 伊藤 泰郎
西澤 晃彦 |
| 2. コミュニティ・ユニオン組合員の仕事と組合活動——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (2) | 尚綱学院大学 | 内田 龍史 |
| 3. 参加意思からみたコミュニティ・ユニオン組合員の構成——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (3) | 放送大学 | 北川 由紀彦 |
| 4. 地方のコミュニティ・ユニオンの組合員と活動の特徴について——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (4) | 東京学芸大学 | 山口 恵子 |
| 5. コミュニティ・ユニオンと移住労働者 ——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (5) | ○広島国際学院大学
広島国際学院大学 | 崔 博 憲
伊藤 泰郎 |
| 6. ローカルなユニオン運動の特徴について——コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク調査 (2012-2014) の分析 (6) | 東洋大学 | 文 貞 實 |

災害 (1)

教室 32号館 322-1

司会者 田中 重好 (名古屋大学)

- | | | |
|--|--------------------|-----------------|
| 1. 「災害の経験」と「運動の経験」——重層する「時間」軸から「社会運動の地勢」の変化を再考する | ○一橋大学
一橋大学 | 町村 敬志
菰田 レエ也 |
| 2. 災害と公共性の政治過程論——福島第一原発事故を事例として | ○東北大学大学院
ソウル大学校 | 佐藤 圭一
金 知 栄 |
| 3. 災害の時間と公共性——「セウォル号特別法」制定のプロセスを中心に | ソウル大学校 | 金 知 栄 |
| 4. 大規模災害発生リスク認知と原子力政策に対する態度の変化——JGSS-2008/2010/2012/2015 の比較を通して | ○大阪商業大学
大阪商業大学 | 穴戸 邦章
岩井 紀子 |
| 5. 抵抗としての「不安」——放射線の影響に関する意識調査から | 東北学院大学 | 鈴木 努 |
| 6. 災害文化と心の脆弱性 | 山口大学 | 高橋 征 仁 |

文化・社会意識 (2)

教室 34号館 452

司会者 宮原 浩二郎 (関西学院大学)

- | | | |
|---|------------------|---------|
| 1. 「社会的寛容」に関する実証的な研究の系譜 | 青山学院大学 | 一寸木 英多良 |
| 2. 信頼社会とはどのような社会か——グローバル化と社会的公正からみたEU諸国の「一般的信頼」 | 駒澤大学 | 片岡 えみ |
| 3. 葛藤する保守——市場制度への信頼と雇用対策への支持 | 京都大学 | 池田 裕 |
| 4. 離島からの情報発信と女性の役割 | 長崎県立大学シー
ボルト校 | 吉光 正 絵 |
| 5. ホームレスに対する認識と社会的排除の構造 | 三育学院大学 | 篠原 清 夫 |
| 6. 食によって社会的意識を表すことは可能か | 関西学院大学 | 鈴木 謙 介 |
| 7. 現代美術市場の中の経済倫理 | 大阪産業大学 | 持元 江津子 |

社会病理・逸脱 (2)

教室 32号館 323
司会者 苫米地 伸 (東京学芸大学)

1. 被害者の有責性の概念に関する歴史社会的考察——被害者学者・宮澤浩一の言説実践に注目して 筑波大学大学院 岡村 逸郎
2. 追いつめられる母親たち——貧困と児童虐待 大阪市立大学大学院 秋風 千恵
3. 少年犯罪に対する親の「不作為」という視点——米カリフォルニア州における「親の刑事責任法」に着目して 筑波大学大学院 秋本 光陽
4. うつ病という自殺動機の付与と死の責任の宛先の決まり方 立命館大学 藤原 信行
5. ある精神科通院患者の語り——摂食障害者の問題経験と意味世界に着目して 一橋大学大学院 河村 裕樹

福祉・保健・医療 (2)

教室 32号館 324
司会者 坂田 勝彦 (東日本国際大学)

1. 「沖縄 MTL」と同時代沖縄のハンセン病問題 山口県立大学 中村 文哉
2. 非入所のような、そうでないような——あるハンセン病回復者のライフストーリー 埼玉大学 福岡 安則
3. 「病気を受け入れない」で病むことを引き受ける——線維筋痛症患者の語りから 大阪大学大学院 野島 那津子
4. 断薬した元精神科患者の語りの分析——薬物療法に対する意識の変化を中心に 県立広島大学 澤田 千恵
5. 重度知的障害者通所施設における連絡帳をめぐる解釈実践——連絡帳というドキュメントを取り巻く職員と保護者を事例として 日本大学 岡田 祥子

性・ジェンダー (2)

教室 32号館 224
司会者 江原 由美子 (首都大学東京)

1. 「オレの子宮」の指標するもの——ジェンダー—人称による攪乱のエスノグラフィ お茶の水女子大学 宮崎 あゆみ
2. 非触法ペドファイルの語り——ケア社会学の可能性を考える 広島大学 湯川 やよい
3. 作品のわいせつ性に関する法的判断と常識的知識——日本におけるメイプルソープ事件判決を事例として 東京大学大学院 岡 沢 亮
4. <性暴力被害にあうこと>をめぐる語り——重要な他者との関係 大阪府立大学 伊藤 良子
5. 戦後沖縄における女性の復帰運動——沖縄婦人連合会を中心に 日本女子大学 高橋 順子

子ども・青年・中高年 (1) 現代若者文化の位相と地域性

教室 31号館 202
司会者 伊奈 正人 (東京女子大学)

1. 現代若者文化の位相と地域性 (1) 青少年研究会 2014 年調査について 茨城大学 寺地 幹人
2. 現代若者文化の位相と地域性 (2) メディア利用への友人関係の影響 京都大学大学院 藤田 智博
3. 現代若者文化の位相と地域性 (3) LINE 利用の規定要因 桃山学院大学 阪口 祐介
4. 現代若者文化の位相と地域性 (4) 親密な友人関係の今日的位相 立教大学 福重 清
5. 現代若者文化の位相と地域性 (5) 若者の将来展望と将来不安 大阪大学大学院 妹尾 麻美
6. 現代若者文化の位相と地域性 (6) 自己を肯定する資源の位相 大妻女子大学 牧野 智和

民族・エスニシティ (2)

教室 31号館 201
司会者 白水 繁彦 (駒澤大学)

- | | | |
|--|---------|--------|
| 1. 新聞記事における「外国人」表象と排外意識への影響——地域間比較の視点から | 東北大学大学院 | 永吉 希久子 |
| 2. 合衆国国勢調査データからみた 20 世紀初頭における日系アメリカ人 | 日本大学 | 武井 勲 |
| 3. 冒険と新自由主義 | 桐蔭横浜大学 | 大野 哲也 |
| 4. 難民と祖国の民政化——滞日ビルマ系難民の事例から | 名古屋学院大学 | 人見 泰弘 |
| 5. 越境的な統治メカニズムとしての米国強制送還レジーム ——メキシコ南部オアハカ州「先住民」村落の事例を中心に | 一橋大学大学院 | 飯尾 真貴子 |

歴史・社会史・生活史 (2)

教室 36号館 582
司会者 難波 功士 (関西学院大学)

- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| 1. テレビにおける「農業・農村」表象構築プロセス (1) ——秋田県を撮影対象としたNHK『明るい農村 (村の記録)』を事例として | ○静岡文化芸術大学
滋賀県立大学
東京大学
静岡文化芸術大学 | 船戸 修一
武田 俊輔
祐成 保志
加藤 裕治 |
| 2. テレビにおける「農業・農村」表象構築プロセス (2) ——秋田県を撮影対象としたNHK『明るい農村 (村の記録)』を事例として | ○東京大学
静岡文化芸術大学
静岡文化芸術大学
滋賀県立大学 | 祐成 保志
加藤 裕治
船戸 修一
武田 俊輔 |
| 3. テレビにおける「農業・農村」表象構築プロセス (3) ——秋田県を撮影対象としたNHK『明るい農村 (村の記録)』を事例として | ○静岡文化芸術大学
静岡文化芸術大学
滋賀県立大学
東京大学 | 加藤 裕治
船戸 修一
武田 俊輔
祐成 保志 |
| 4. 近代東京とミルク——東京市社会局の児童保護事業と社会調査 | 早稲田大学 | 武田 尚子 |
| 5. 高度経済成長期における耐久消費財の普及と家事時間——1965年『神奈川県団地居住者生活実態調査』の復元による2次分析 | 成蹊大学 | 渡邊 大輔 |
| 6. 19世紀フランスと日本における不敬の刑罰化——国家の比較歴史社会学の試みとして | 大阪市立大学 | 稲永 祐介 |

Session in English (2)

Place : Bld. No31 204
Chairperson: Eiji Hamanishi (Notre Dame Seishin University)

- | | | |
|--|----------------------------------|------------------|
| 1. Social Construction of Artist Definition in the Artist Welfare Policy: The case of Korean Artist Welfare Act | Seoul National University | Jung Pil Joo |
| 2. Changing Patterns in Death Announcements | KOC University | ERGIN Murat |
| 3. Collective Selection, Gender and Class Differentiation. Herbert Blumer's misconception of gender- and class-based theories of fashion | Universidad Pontificia Bolivaria | Ana Elena Builes |
| 4. The efforts of the UK universities on the prevention of the harassment- Based on the interviews with people working for the "Dignity and Diversity" - | Hokkaido University | Kawabata Tomoko |
| 5. A Study of the MSM Population in Okinawa: Happiness and Disclosure of Sexual Orientation | University of Melbourne | Adam Rolander |
| 6. Social innovation as a contribution to strengthening social cohesion and alleviating the crisis in Europe and in Croatia | Faculty of Law Zagreb | Baturina Danijel |

社会学における概念・理論・方法の移植 (transplant) (2) (テーマセッション 5)

教室 31号館 205

司会者 飯島 祐介 (東海大学)

1. 音楽から社会学、社会学から映画へ——アドルノとクルーゲに見る「社会学理論」と「文化」間の相互移植 立教大学 片上 平二郎
2. 想像力と生産力——ヘルベルト・マルクーゼの批判的社会理論における想像力概念の受容と展開 東京大学大学院 馬 渡 玲 欧
3. 社会学的意味論研究の課題——ニクラス・ルーマン社会理論の経験的展開可能性 東京大学大学院 坂 井 晃 介
4. オートポイエシスの社会学化にみる認識論的障害 東京女子大学 赤 堀 三 郎

食と農の社会学 (パート 2) (テーマセッション 6)

教室 32号館 325

司会者 谷口 吉光 (秋田県立大学)

1. 若年層の就農促進のための農業体験の必要性に関する研究 立命館大学大学院 本 多 彩 夏
2. "TEIKEI" の先にある「宮城のこせがれネットワーク」の活動 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 飯 坂 正 弘
3. 社会学は「食の倫理」にどのようにアプローチできるか? 東京都市大学 大 塚 善 樹
4. 農業・食料の「金融化」と対抗性構築上の課題 茨城大学 立 川 雅 司

トランスナショナリズムの批判的再検討——グローバルズムに抗う「越境」を想像／創造する (研究活動委員会企画テーマセッション 1)

教室 31号館 208

司会者 塩原 良和 (慶應義塾大学)

1. 21世紀社会学の探究課題としてのナショナリズム・トランスナショナリズム・コスモポリタニズム 成城大学 西 原 和 久
2. コスモポリタニズム論における「連帯」を問い直す——「コスモポリタン・リベラル」に対する批判を手掛かりに 慶應義塾大学大学院 鈴 木 弥 香 子
3. 移民と地方自治——デンマークの地方税と地方財政調整制度を事例として 慶應義塾大学大学院 倉 地 真 太 郎
4. ポストナショナルな社会的連帯の想像力——非正規滞在者権利運動の事例分析 岡山大学 高 谷 幸
5. 日系ブラジル人の誕生パーティーにみるトランスナショナリズム 慶應義塾大学大学院 山 本 直 子
6. オフショア・ネオリベラリズム——日本海運業の規制緩和と海上労働の多国籍化を事例として 神戸大学 栢 木 清 吾

変動する研究環境と倫理問題 (倫理委員会企画テーマセッション)

教室 36号館 681

司会者 小内透 (北海道大学)、天童睦子 (宮城学院女子大学)

1. アカデミック・インテグリティ (学問的誠実性) をめぐる世界と日本の現状と課題 東北大学 羽 田 貴 史
2. 共同研究とオーサーシップの問題 広島大学 横 山 美 栄 子
広島大学 北 仲 千 里
3. 論文作成における倫理問題 東北大学 長 谷 川 公 一
4. 調査データ・調査票の再利用をめぐる問題 大阪商業大学 谷 岡 一 郎

日台学術交流：地域研究と国際社会学の間

——人の移動と大学の現在に焦点化して（国際交流委員会企画テーマセッション）

教室 36号館382
司会者 小ヶ谷 千穂（フェリス女学院大学）
討論者 樽本英樹（北海道大学）・森千香子（一橋大学）

1. Deferential Surrogates and Professional Others: Recruitment and Training of Migrant Care Workers in Taiwan and Japan 国立台湾大学 Pei-Chia Lan
2. Risk and Cross-National Talent Mobility: The Absorption of Japanese Engineers into Taiwan's High-Tech Industry 国立東華大学 Mayumi Tabata
3. Transformation and Mobility of Japanese Immigrant Community in Contemporary Taiwan 藤女子大学 金戸 幸子
4. Why the Asia craze for Publication?: An Examination from Academic Regime 輔仁大学 Tai Po-Fen
5. Self-image and Missions of Universities: An Empirical Analysis of Japanese University Executives 広島大学 村澤 昌 崇
広島大学 渡 邊 聡

社会学を創造する——見田社会学との対話（若手フォーラムB）

教室 34号館355
対話者 見田 宗介（東京大学名誉教授）
コーディネーター 芳賀 学（上智大学）

1. 自己変革と社会変革のあいだ——1960年代研究からの問いかけ 東北大学 小杉 亮子
2. 「まなざし」の時空完成——東京なるものと沖縄なるもののあいだ 一橋大学 森 啓輔
3. 社会運動研究から現代社会理論へ 上智大学 龍野 洋介
4. 見田社会学の行方——「おもしろい」社会学の居場所 神戸松蔭女子学院 西川 純司
大学

招待講演

教室 36号館581
論文の部司会者：水島和則（椋山女学園大学）
著書の部司会者：小川英司（鹿児島国際大学）

【論文の部】

講演者：西丸良一（同志社大学）

講演タイトル：高等教育進学に対する私立高校の影響——出身階層に注目して

受賞作品：「高校の設置者種別と教育達成——私立高校の生徒の出身階層に注目して」『ソシオロジ』59(1)

【著書の部】

講演者：加島卓（東海大学）

講演タイトル：『< 広告制作者 > の歴史社会学——近代日本における個人と組織をめぐる揺らぎ』を書くまでとこれから

受賞作品：『< 広告制作者 > の歴史社会学——近代日本における個人と組織をめぐる揺らぎ』（せりか書房）

第二日 (9月20日)

一般研究報告 (3) (9時30分～12時30分)

地域社会・地域問題 (4)

教室 32号館 228

司会者 藤井 勝 (神戸大学)

1. アメリカの鉄道化と経済成長の「テイクオフ」——大陸横断鉄道による空間編成の変容 東京大学 青山 賢治
2. バンコクの新中間層と地域共同管理 ——新興住宅地の住民組織をめぐって ○福島大学 牧田 実
宇都宮大学 マリノ
ケオマノータム
3. 二つのタイ農村における試験の比較社会学 日本女子大学 尾中 文哉
4. 東アジアの互助慣行——日本と韓国、中国、台湾との比較 流通経済大学 恩田 守雄
5. 地方社会における国際結婚——H県T地方におけるアンケート調査を中心として ○神戸大学 白鳥 義彦
神戸大学 佐々木 祐祐
神戸大学 連興 檳源
神戸大学 胡源 源
6. 中国における国際結婚移民受容と家族維持戦略 ——中国東北地区H県の国際結婚を事例として 神戸大学大学院 胡源 源

地域社会・地域問題 (5) 地域の壁を考える

教室 32号館 229

司会者 室井 研二 (名古屋大学)

1. 地域の壁を考える (1) ——その方法論及び試論 岡山大学 藤井 和佐
2. 地域の壁を考える (2) ——沖縄県M島の女性リーダーたちの語りから 友朋監査法人 杉本 隆
3. 地域の壁を考える (3) ——祭事をめぐる字会・公民館の運営 関西大学 栄沢 直子
4. 地域の壁を考える (4) ——灰塚ダム生活再建地をめぐる住民関係から 大阪人間科学大学 杉本 久未子
5. 地域の壁を考える (5) ——宅地化した戦後開拓地における共同性の考察 新見公立短期大学 大竹 晴佳
6. ペットフレンドリーなコミュニティの条件——コミュニティ疫学試論 麻布大学 大倉 健宏

地域社会・地域問題 (6)

教室 32号館 321-1

司会者 松宮 朝 (愛知県立大学)

1. 日本型住宅システムの変容と諸課題 ——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ (1) 桃山学院大学 村上 あかね
2. 愛知県刈谷市の事例でみる住宅・居住形態・親族関係 ——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ (2) 神戸大学大学院 平井 晶子
3. 京都府綾部市の事例にみる移住希望者と地域住民のギャップ調整——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ (3) 学習院大学 姫野 宏輔
4. 「脱法ハウス」問題にみる法的住宅概念と家族モデル——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ (4) 日本大学 久保田 裕之
5. 地方都市郊外におけるニュータウンのオールタウン化問題——仙台都市圏を事例に 東北大学 大井 慈郎
6. 訪ねる・住まう湯治場 ——肘折温泉郷 (山形県最上郡大蔵村) の事例から 明治学院大学大学院 永岡 圭介

産業・労働・組織 (5)

教室 32号館 226
司会者 池田 心豪 (労働政策研究・研修機構)

- | | | |
|--|---------|--------|
| 1. ワークプレイス研究のエスノメソドロジ－的展開 (1)——ワークプレイス研究の興隆と現在 | 北星学園大学 | 水川 喜文 |
| 2. ワークプレイス研究のエスノメソドロジ－的展開 (2) ——学際研究実践の社会学的意義 | 山口大学 | 秋谷 直矩 |
| 3. ワークプレイス研究のエスノメソドロジ－的展開 (3)——協働学習のエスノグラフィから学習の実践学へ | 北海学園大学 | 五十嵐 素子 |
| 4. アニメーターの労働問題と職業規範——「職人」的規範と「クリエイター」的規範に着目して | 一橋大学大学院 | 松永 伸太郎 |
| 5. 百貨店店員の働きすぎの研究——働きすぎの百貨店店員の働く動機と百貨店業界の業界イデオロギ－ | 中央大学 | 前島 賢士 |
| 6. 労働者の自職卑下メカニズムが主観的幸福感に及ぼす影響——自職卑下傾向の規定因としての職業評定基準 | 東北大学大学院 | 古里 由香里 |

階級・階層・移動

教室 32号館 225
司会者 佐藤 嘉倫 (東北大学)

- | | | |
|--|-------|---------|
| 1. 若年・壮年層の格差の連鎖・蓄積のメカニズム——東大社研パネル調査 (JLPS) の分析 | 東京大学 | 石田 浩 |
| 2. 高齢層の経済格差に関する実証研究——世帯構造と所得構造の変化に着目して | 東京大学 | 白波瀬 佐和子 |
| 3. 福井市内高校卒業者の地域移動の変化と将来イメージ | 東洋大学 | 西野 淑美 |
| 4. ルックスと社会階層——実験と調査で計量分析する | 成蹊大学 | 小林 盾 |
| 5. 2000年代における生活困窮者の析出過程——地方出身者の生活歴に注目して | 東洋大学 | 渡辺 芳 |
| 6. 中国帰国者一世の階層移動——関東地区在住者の職歴による分析 | 早稲田大学 | 張 龍 龍 |

社会運動

教室 32号館 325
司会者 鵜飼 孝造 (同志社大学)

- | | | |
|--|-----------|--------|
| 1. 参加型民主主義をいかに組織化するか——ワーカーズ・コレクティブにおけるメンバー同質性のマネジメント | 一橋大学大学院 | 菰田 レエ也 |
| 2. 現代日本の「草の根保守」合同運動・日本会議——そのナショナリズム、宗教性の構造と運動手法 | 國學院大學 | 塚田 穂高 |
| 3. 貧困対抗活動の生態系と福祉社会——個人的／社会的レジリエンスの観点から | 関西大学 | 西川 知亨 |
| 4. アメリカ G I 運動とベ平連 | 呉工業高等専門学校 | 木原 滋哉 |
| 5. ヴェネツィアの大型客船反対運動 (NO Grandi Navi Committee) の事例研究——コスモポリタン化する社会の理解にむけて | 神戸大学大学院 | 大川 内 晋 |
| 6. 中国社会における草の根 NGO の役割と可能性——北京市での農民工支援にみる一考察 | 横浜市立大学大学院 | 袁 帥 |

災害 (2) 東日本大震災

教室 32号館 322-1
司会者 加藤 眞義 (福島大学)

- | | | |
|---|------------------|--------------------|
| 1. 東日本大震災被災地における商業地再建の過程——岩手県大槌町を事例として | 学習院大学 | 新 雅 史 |
| 2. 震災復興と町内会の変容と課題——岩手県釜石市の事例から | 岩手県立大学 | 吉 野 英 岐 |
| 3. 復興における女性の役割——宮城県石巻市北上町における子育てにかかわる活動の事例を通して | ○岩手県立大学
北海道大学 | 庄 司 知 恵 子
武 中 桂 |
| 4. 東日本大震災後の都市若年層の精神的健康——仙台市における若年層調査データの分析 | 東北学院大学 | 神 林 博 史 |
| 5. 情報化社会における災害ボランティアに関する統計的検討——東日本大震災被災写真救済ボランティアを事例として | 日本学術振興会 | 溝 口 佑 爾 |

知識・科学

教室 32号館 323
司会者 松本 三和夫 (東京大学)

- | | | |
|--|-----------|---------|
| 1. 精神疾患の流行を規定する社会的要因——「うつ」と「神経衰弱」の比較から | 小樽商科大学 | 佐 藤 雅 浩 |
| 2. 「神経学化」と「心理学化」——外来精神医療における不安障害患者を事例として | 東京大学大学院 | 櫛 原 克 哉 |
| 3. 医学論文における凝固因子製剤による血液由来感染の記述変遷 | 産業医科大学 | 種 田 博 之 |
| 4. 難病対策要綱体制における疾患名モデル——日本型難病政策に関する歴史分析 | 明治学院大学大学院 | 渡 部 沙 織 |
| 5. レーガン政権における対テロ戦争政策の構想・遂行過程の科学社会的分析 | 日本学術振興会 | 河 村 賢 |
| 6. 真理に関する社会学理論の可能性——手続き的科学観の再検討 | 東京大学大学院 | 松 村 一 志 |

情報・コミュニケーション インターネットとソーシャルメディア

教室 34号館 452
司会者 吉田 純 (京都大学)

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1. 変動する社会におけるインターネット利用の意味——日本とマレーシアの比較を通じて | 流通科学大学 | 前 田 至 剛 |
| 2. 新聞報道に見る少年非行とインターネット利用の関連性について | 早稲田大学大学院 | 北 嶋 健 治 |
| 3. ソーシャルメディアのドラマツルギー——ゴフマンのパーспекティブから | 東北工業大学 | 木 村 雅 史 |
| 4. 情報共有空間の資源論——動画投稿サイトの著作権侵害問題を事例として | 東京大学大学院 | 加 藤 謙 信 |
| 5. コミュニケーション・メディアによって形成される多層的ネットワークの研究——高校の学級の事例に着目して | 東京大学大学院 | 前 嶋 直 樹 |

福祉・保健・医療(3)

教室 32号館 324
司会者 栗岡 幹英 (奈良女子大学)

1. 障害定義と身体——「差別」の区別と障害問題の特質について 東京大学大学院 榊原 賢二郎
2. 通訳場面における難聴者と聴者の相互行為について 関西学院大学大学院 飯塚 諒
3. 健全者を手足とみなすとはいかなる意味か——1970年代の障害者／健全者運動から 東京大学大学院 石島 健太郎
4. 中井久夫「世に棲む患者」論再考——精神障害者の新たなライフスタイルの可能性— 東海学園大学 早野 禎二
5. できるようになるための授業から、どの子も一緒に取り組める授業へ——八王子養護学校の1970/80年代 名寄市立大学 堀 智久

子ども・青年・中高年(2)

教室 31号館 202
司会者 新井 克弥 (関東学院大学)

1. 現代若者文化の位相と地域性(7) ACG文化の一般化と友人関係 首都大学東京大学院 大倉 韻
2. 現代若者文化の位相と地域性(8) ファッションによる自己表現の規定要因 日本女子大学 木村 絵里子
3. 現代若者文化の位相と地域性(9) 都市度と音楽聴取スタイル 東京大学大学院 小川 豊武
4. 地域における「つながり」に関する若者の意識——北海道の高校生を対象とした調査から 北海道大学 三上 直之
5. 若年親同居未婚者における階層帰属意識の規定要因 大阪大学大学院 狭間 諒多朗
6. 現代日本若年女性の「生きづらさ」のもう一つの要因——「過剰自己実現欲求」仮説 鹿児島大学 桜井 芳生

民族・エスニシティ(3)

教室 31号館 201
司会者 福田 友子 (千葉大学)

1. 外国人住民の「非集住地域」研究の可能性(1)——概況と問題提起 聖カタリナ大学 徳田 剛
2. 外国人住民の「非集住地域」研究の可能性(2)——技能実習生をめぐる動向とその課題 ノートルダム清心女子大学 二階堂 裕子
3. 外国人住民の「非集住地域」研究の可能性(3)——民族学校を中心とした在日コリアンコミュニティの現況 愛媛大学 魁生 由美子
4. 外国人住民の「非集住地域」研究の可能性(4)——地方社会での医療・福祉にかかわる支援状況 聖カタリナ大学 田村 周一
5. 地域社会の活性化と外国人・移民政策——青森県三沢市を事例として 青森大学 佐々木 てる

歴史・社会史・生活史(3)

教室 36号館 582
司会者 佐藤 成基 (法政大学)

1. <戦争の記憶>と<戦後社会>の重ね描き——日本海軍戦没追悼式典のエスノグラフィ— 東京都市大学 塚田 修一
2. 都市戦争災害の集合的記憶の比較分析——東京大空襲と広島原爆の死者供養に着目して 日本学術振興会／筑波大学 木村 豊
3. 戦後日本のホモソーシャルなナショナリズムの歴史社会学——「満洲国」崩壊期の戦時性暴力と「中国残留婦人」の表象の比較 京都大学 猪股 祐介
4. 旧東ドイツ社会学者が経験した「統一」——「大学改革」後の進路における適応過程と当事者による語りの分析 東京大学 飯島 幸子
5. 大正期における女学校設立の背景についての研究——淡海女子実業学校を事例として 関西学院大学 荒木 康代
6. グローバル文化圏における関係性の形成と変容——陶磁器をめぐる生産・流通・消費ネットワークの分析 首都大学東京 太田 有子

Session in English(3)

Place :Bld. No31 204

Chairperson:Kazuhisa Honda(Tokai University)

- | | | |
|---|----------------------------|--------------------------------------|
| 1.Remembering Imperialism and Anti-Imperialism: Collective Memory of International History in Socialist China | Waseda University | Y I W A N G |
| 2.Comprehending "National Identity" of National Minorities —A conceptual and theoretical suggestion from a case study of Okinawa — | Hitotsubashi university | S a k a s h i t a
M a s a k a z u |
| 3.Migration for Dependents in Japan: between Career and Family | Nagoya University | Median Mutiara |
| 4.Nationality, Socio-economic Position and Mother's Mental Health Trajectory: 5-year follow-up of 19,325 Mothers in Taiwan Birth Cohort Study | National Taiwan University | ChangYi Han |
| 5.Revisiting The Past -- The Culture of Contrition in Taiwan | University of Cambridge | LING-YU HSIAO |
| 6.THE IMPLICATIONS OF POLITICAL THUGGERY ON THE SOCIO-ECONOMIC AND POLITICAL DEVELOPMENT IN NORTHERN NIGERIA | University of Colombo | Dafi Magaji |
| 7.The Right of the People of the Occupied Formosa to Natural and Economic Resources | Zen-Bow Law Firm | KENG-GOAN ZAN |

世界へのメッセージを深める (テーマセッション7)

教室 31号館205

司会者 庄司興吉 (東京大学名誉教授)

- | | | |
|---|------------|---------|
| 1. 社会、society、société 概念の再考——日本社会学からの発信準備作業のために | 東京女子大学 | 今 野 晃 |
| 2. 日本社会学の視角から見る東アジア・東南アジアの地域統合 | 東京女子大学 | 中 村 眞 人 |
| 3. 貧困からの解放をもとめて | 茨城大学 | 富 江 直 子 |
| 4. 『承認と再分配』二元論をこえて | 國學院大學 | 中 馬 祥 子 |
| 5. 社会調査は社会支援の基本でもあることの想起——予防と原因究明、実践と理論との接続 | 経済総合分析株式会社 | 木 下 博 之 |

〈男性の生きづらさ〉をめぐる社会学 (テーマセッション8)

教室 32号館224

司会者 田中俊之 (武蔵大学)

- | | | |
|--|-----------|---------|
| 1. 暴力にさらされて育つ男性の「生きづらさ」——1990年代前半から2000年代前半のDV言説の布置連関に着目して | 筑波大学大学院 | 川 村 智 樹 |
| 2. 男性間性暴力と男性性再生産の構造——若年ゲイ男性のライフストーリーを事例として | 一橋大学大学院 | 大 島 岳 |
| 3. 〈男性の生きづらさ〉からの安全圏——男子校OBの語りを事例に | 一橋大学大学院 | 徳 安 慧 一 |
| 4. 現代日本における父親の生きづらさ——子育てというケアと男らしさのはざままで | 大阪府立大学大学院 | 巽 眞 理 子 |
| 5. 企業別シティズンシップと新しい男性性——生きづらさとその背景 | 北海道大学 | 今 井 順 |

専門職教育における社会学——現場にフィットする理論と方法の再創造（研究活動委員会企画テーマセッション 2）

教室 31号館 208

司会者 檜田 美雄（神戸市看護大学）

- | | | |
|--|----------------|-----------|
| 1. コモンセンス・ファシリテーターとしての社会学 | 中央大学 | 中 澤 秀 雄 |
| 2. 医科大学の社会学者 | 防衛医科大学校 | 金 子 雅 彦 |
| 3. 日本の医学部教育における社会科学教育の必要性 | 東海大学医学部産婦人科 | 和 泉 俊 一 郎 |
| 4. 医師養成教育での社会学の位置づけ——「薬害教育」からの展開可能性 | 和歌山県立医科大学 | 本 郷 正 武 |
| 5. 法学教育における社会学の役割——神戸大学法科大学院における会話分析教育を中心に | 神戸大学 | 檜 村 志 郎 |
| 6. 児童の「つぶやき」の取り扱いと教室秩序との関係 | 東京学芸大学附属小金井小学校 | 齊 藤 和 貴 |

日中における親密圏の変容——家族・親族の現在（日中ジョイントパネル）

教室 34号館 355

司会 首藤明和（長崎大学）

日本側発表者：米村千代（千葉大学）、大橋史恵（武蔵大学）

中国側発表者：Wang Ning（中山大学）、Tian Feng（中国社会科学院）、Wang Tianfu（清華大学）

ポスターセッション (9月20日(日) 10時30分～13時00分)

教室 31号館104 (1～6)、31号館105 (7～11)

- | | | |
|--|----------|--------|
| 1. 東日本大震災被災地における復興支援活動の展開——南三陸町「福興市」と大妻女子大学「地域連携プロジェクト」に関する事例研究 | 大妻女子大学 | 千川 剛史 |
| 2. 陸前高田市仮設住宅における外部支援の構造及び問題とその変化——自治会長聞き取り調査の分析を通じて | 東京大学大学院 | 仁平 典宏 |
| 3. 農業支援体制の構築への農村社会的アプローチ——岩手県北上市の事例を手掛かりに | 岩手県立大学 | 劉 文静 |
| 4. 困りごとを話すこととそれへの応答の場面横断的分析——試論 | 神戸女学院大学 | 戸江 哲理 |
| 5. 金銭的援助規範のパターンと世代差に関する比較社会学 | 日本学術振興会 | 伊達 平和 |
| 6. エンパワメント型アートセラピー活動をどう育てるか——構成要件と評価基準の確立にむけて「エンパワメント」のあり方を問う | 神戸医療福祉大学 | 兼子 一 |
| 7. 日比経済連携協定 (JPEPA) 下で来日した看護師・介護福祉士候補者の社会人口学的特性の比較 | 長崎大学大学院 | 平野 裕子 |
| 8. 事業を営む人々の生活・労働・ジェンダー関係——JGSS および SSM 調査の二次分析から | 九州産業大学 | 宮下 さおり |
| 9. パネルデータによる従業上の地位と性役割意識の関係の検討——観察されない異質性と内生性の検討 | 京都大学 | 太郎 丸博 |
| 10. Maintaining Diversity in Policy-Oriented Research: Alternatives of Work-Life Balance Measures for Gender Equality in Japan | 東北大学 | 田中 重人 |
| 11. 誰が恋愛結婚・見合い結婚をしてきたか——潜在クラス分析によるアプローチ | 東北大学大学院 | 毛塚 和宏 |

シンポジウム (9月20日(日) 13時30分～17時00分)

シンポジウム(1) 戦後日本社会学の(再)発見—境界へのまなざし／境界からのまなざし

教室 34号館453

司会者 杉野 勇 (お茶の水女子大学)

出口 剛司 (東京大学)

1. 自我の社会学理論の越境——『自我の起源』と『生成の社会学をめざして』を中心に
立教大学 奥 村 隆
2. 文学からの社会学——作田啓一の理論と方法
神戸学院大学 岡 崎 宏 樹
3. 情報学から科学論へ——吉田理論の射程
大妻女子大学 正 村 俊 之

討論者：三上剛史 (追手門学院大学)、浅野智彦 (東京学芸大学)

シンポジウム(2) 戦争をめぐる社会学の可能性

教室 38号館AV教室1

特別コメンテーター：正岡 寛司 (早稲田大学名誉教授)

司会者 好井 裕明 (日本大学)

関 礼子 (立教大学)

山田 真茂留 (早稲田大学)

1. ホモ・ベリクス (Homo Bellicus) — 人間は戦争が好きなのか
関西学院大学 荻 野 昌 弘
2. 戦争史記述の社会的基準
筑波大学 野 上 元
3. 「戦争の記憶」と戦後メディア史
立命館大学 福 間 良 明

討論者：菊地夏野 (名古屋市立大学)、八木良広 (立教大学兼任講師)